

# 高等学校までの英語授業へのエンゲージメントが その後の英語学習への姿勢に与える影響

サルバシオン 有紀\*・大場 浩正\*\*・渡邊 政寿\*\*\*

(令和6年1月26日受付；令和6年4月3日受理)

## 要 旨

本研究の目的は、大学入学直後の1年生826名(2013年度から2023年度)を対象に、小学校、中学校及び高等学校で受けてきた英語授業へのエンゲージメント(特に、行動的および感情的な側面)が、その後の英語学習への姿勢や英語に対する意識にどのような影響を与えるかを量的および質的に検討することである。特に、本研究では、高等学校での取り組みを中心に考察する。質問紙調査は、現在における英語や英語学習に関する感情や過去の英語学習(小学校から高等学校まで)の楽しさなどを問うものであった。結果として、高等学校における英語学習の楽しさ、換言すれば充実度が、その後の英語学習への感情(好き、得意)、および姿勢に与える影響が大きいことが明らかになった。質的な分析から、英語をコミュニケーションツールとして必要不可欠なものとして捉えているが、高校時代は授業においても英語を話す機会がそもそも少なかったと感じている学生がいることも分かった。特に、高校の授業が楽しかったと回答した学生たちは、「話せるようになりたい」や「コミュニケーションをとれるようになりたい」と感じていた。将来、小学校教員を目指している学生が多く、外国語を指導する機会が想定されることを考えると、今後益々、大学の英語の授業内容の充実が必要になってくるだろう。

## KEY WORDS

Engagement エンゲージメント Attitude Toward Learning English 英語学習への姿勢 Awareness of English 英語に対する意識

## 1 研究の背景

文部科学省は、2013年小学校、中学校、高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図るために「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を発表した。そして、2020年より順次、小学校から高等学校まで学習指導要領が改訂された。社会や教育制度の変化によって、英語教育のあり方や学習者の学びにどのような影響を与えたのかを明らかにすることは重要である。従って、小学校から高等学校までの英語教育を終えて、大学に入学してきた学生にそれぞれの校種において、英語に対してどのような感情を抱いていたか、また、どのように英語学習に取り組んできたかを調査することは、今後の小学校、中学校、高等学校の英語教育をより充実したものにするために必要なことであろう。さらに、大学の英語教育においても、学生たちの過去の英語学習経験を知ることは、カリキュラム編成を行う際に有益な示唆が得られるものと考えられる。

ある大学の同一学年の学生を対象とし、長期間にわたって過去の英語や英語学習に関する意識を調査した研究は管見の限りほぼ見当たらない。数少ない調査の一つである、渡邊・大場(2023)は、10年間にわたって、初等教育教員養成課程に入学直後の大学1年生延べ742名を対象に、小学校、中学校、高等学校における英語学習について調査した。5件法の質問紙調査を実施した結果、「英語が好き」への回答の平均値は3.14から3.77で推移しており、あまり大きな変化は見られなかった。10年間の平均値は3.36であった。得意・不得意の平均値は2.55であり、英語は不得意である傾向が見て取れた。校種別における英語学習の楽しさに関する質問では、小学校の平均値は3.84、中学校の平均値は3.51、高等学校の平均値は2.93であった。すなわち、小学校の平均値が高く、中学校、高等学校と段々下がっており、この傾向は毎年変化がなかった。質的分析からは、小学校、中学校、高等学校と学習内容が難化するに伴い、英語が楽しいと思える機会が減っていたが、その原因の一つが受験であった。テストのために暗記するだけの詰め込み学習、コミュニケーションがなく、楽しくない授業といった「受験に対する否定的意見」が圧倒的多数を占めた。その一方で、英語がわかるようになったおかげで楽しさがわかるようになった層も一定数存在していた。小学校から高等学校までの英語学習が、その後の英語学習にどのように影響を与えるのかを今後は調査していく必要がある

だろう。

「英語が楽しい」という感情が英語学習に寄与する効果は、感情的エンゲージメントという観点から分析することができる。梅本・伊藤・田中（2016）は、自己調整学習において用いられる各種の調整方略とエンゲージメントとの関連性を分析した結果、メタ認知的方略と自律的調整方略は感情的エンゲージメントに正の関連を示す一方、成績重視方略は感情的エンゲージメントに負の関連を示した。また、感情的エンゲージメントは行動的エンゲージメントとの間に正の関連を示し、行動的エンゲージメントが学業成績に正の関連を示した。すなわち、自分の学習状態をメタ的に認知する学習者は授業に積極的に取り組むだけでなく、授業内の面白さを主体的に見つけながら学習活動に参加する。一方で、成績を落とさないために勉強しようと考ええることで、授業における楽しさや興味関心が低下していく。また、学習者が授業に興味関心を持って楽しく学習活動に参加することが学習への努力やその持続性につながり、結果的に学習成績が向上すると考えられる。

## 2 研究の目的

本研究の目的は、大学入学直後の1年生を対象に、小学校、中学校、および高等学校で受けてきた英語授業へのエンゲージメント（特に、行動的および感情的な側面）が、その後の英語学習への姿勢や英語に対する意識にどのような影響を与えるかを量的および質的に検討することである。特に、本稿では、高等学校での取り組みを中心に考察する。

## 3 調査方法

### 3. 1 調査協力者

調査協力者は、A大学初等教育教員養成課程に入学直後の大学1年生826名（2013年度～2023年度）である。学生には本調査のデータは、大学の授業改革に関して学会や論文等で使用することがあることを説明し、承認を得た。英語力に関しては、大学入試や授業内での活動より、平均して中級程度と判断できる。また、個人名が特定されるような形で提示されることはないことを伝え、同意できる学生のデータののみを使用した。

### 3. 2 調査期間

2013年から2023年までの11年間にわたって質問紙を用いて調査した。必修授業科目である「コミュニケーション英語」の第1回目の授業内において15分程度で実施した。ただし、2020年のみCOVID-19の影響で5月からオンライン授業が開始され、7月より対面授業が再開された。従って、7月の最後の授業（対面）で大学入学前までのことを回顧して回答してもらった。

### 3. 3 調査項目

質問紙を用いて調査を実施した。質問紙の内訳は5段階（「5 とてもそう思う（楽しかった）」から「1 全くそう思わない（楽しくない）」）の自己評価5問（Q1, Q2, Q4, Q5, Q6）、および自由記述3問（Q3, Q7, Q8）であった。具体的には以下の8問である。

Q1：英語は好きですか。

Q2：英語は得意ですか。

Q3：英語について思うことを自由に書いて下さい。

Q4：小学校の時の英語学習は楽しかったですか。

Q5：中学校の時の英語学習は楽しかったですか。

Q6：高校の時の英語学習は楽しかったですか。

Q7：これまでの英語学習について思うことを自由に書いて下さい。

Q8：これからの英語との付き合い方について思うことを自由に書いて下さい。

### 3. 4 データ収集と分析方法

5段階の自己評価の量的分析（平均）および自由記述の質的分析（カテゴリー分け）を行った。質的分析については、質問紙調査の問6に関して「4 楽しかった」と「5 とても楽しかった」と答えた参加者の回答を抜粋した。さらに高等学校卒業後の「英語が好き」と「英語が得意」を目的変数、各校種における「授業が楽しい」という感情を

説明変数とする重回帰分析を行った。統計処理にはHAD17（清水，2016）を使用した。

## 4 結果と考察

表1はQ1，Q2，Q4，Q5及びQ6の年度ごとの記述統計を示している。2023年度も過去10年と比較して，取り立てて大きな変化は見られなかった。図1はQ1「英語は好きですか」とQ2「英語は得意ですか」の回答の平均値の年度ごとの推移を折れ線グラフにしたものである。図2はQ4「小学校の時の英語学習は楽しかったですか」，Q5「中学校の時の英語学習は楽しかったですか」およびQ6「高校の時の英語学習は楽しかったですか」の回答の平均値の年度ごとの推移を折れ線グラフにしたものである。

表1 Q1，Q2，Q4，Q5およびQ6の年度ごとの記述統計

Year		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
	<i>n</i>	40	40	39	125	128	82	83	81	41	83	84
Q1	<i>M</i>	3.55	3.38	3.23	3.14	3.52	3.17	3.31	3.77	3.32	3.30	3.35
	<i>SD</i>	0.75	1.05	0.93	1.04	0.98	0.97	0.97	0.93	0.96	0.93	0.96
Q2	<i>M</i>	2.58	2.50	2.36	2.42	2.65	2.40	2.65	2.80	2.66	2.41	2.49
	<i>SD</i>	0.81	0.82	0.93	0.88	0.94	0.94	0.90	0.86	0.88	0.90	1.09
Q4	<i>M</i>	4.13	3.50	4.00	3.85	3.79	3.82	3.94	3.90	3.68	3.81	3.60
	<i>SD</i>	0.69	0.93	0.95	0.93	0.93	0.94	0.86	0.93	1.04	0.96	0.87
Q5	<i>M</i>	3.75	3.28	3.54	3.44	3.57	3.44	3.55	3.65	3.61	3.39	3.44
	<i>SD</i>	0.90	0.99	0.79	1.03	1.01	1.02	0.89	0.99	1.05	1.09	1.15
Q6	<i>M</i>	2.85	3.00	2.82	2.73	3.22	2.74	2.83	3.11	2.90	2.95	3.14
	<i>SD</i>	1.00	1.18	1.02	1.07	1.17	1.06	1.18	1.04	1.00	1.10	1.11

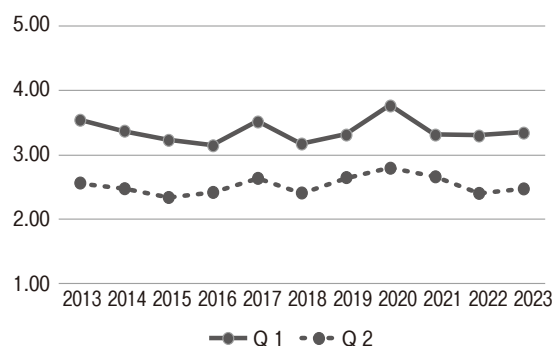


図1 Q1とQ2の年度ごとの平均値の推移

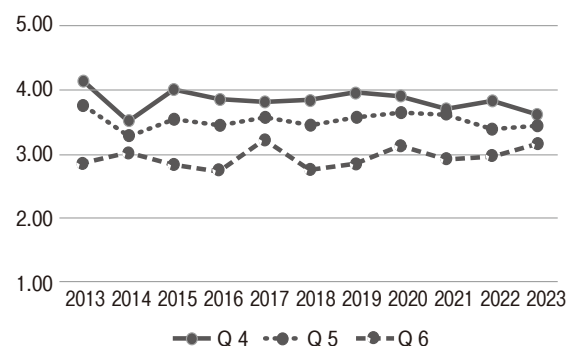


図2 Q4，Q5およびQ6の年度ごとの平均値の推移

2023年度を含めた11年間の「英語が好き」の平均値は3.36であり，「英語が得意」の平均値は2.54であった。英語はどちらかと言えば好きな方だが，得意とは言えない傾向が図1から見て取れる。図2からは，異校種間で英語の学習が楽しかったかを質問した結果，過去10年と同じく小学校の平均値（3.82）が高く，中学校（3.49），高等学校（2.94）と学年が上がるにつれて段々と数値は下がっており，この傾向に変化はなかったことが読み取れる。高等学校の数値が近年微増していることも特徴として挙がる。図1と図2を見比べると図1のQ1「英語が好き」のグラフと図2のQ6「高校の時の英語学習は楽しかった」のグラフが非常に似ていることがわかる。さらに図1のQ2「英語が得意」のグラフも上昇と下降の傾向はほぼ同じである。このことから高校での英語学習が，大学入学直後の1年生に与えている影響が大きいのではないかと推察される。小学校と中学校時代に比べて，自我も形成された上での直近の記憶であり，鮮明に覚えていると思われる。Q6「高校の時の英語学習が楽しかった」のグラフが2020年に上昇した後，一旦下降するものの徐々に上昇した点についての解釈は，以下のように考えられる。コロナ禍でオンライン授業，中でもオンデマンド形式で課題を大量に与えられ，クラスメイトとの接触がない中，自宅で一人黙々と取り組むことが多かった。そんな折にZoomのブレイクアウトルーム機能を用いてオンライン上ではあるが，クラスメイト

と英語でコミュニケーションを取る喜びを感じたことが大きな要素であると考えられる（先述の通り、調査時期は2020年のみ7月実施）。2021年～2023年の3年間にわたって微増しているのも、コロナ禍で高校時代にコミュニケーションの機会を十分に取れなかった経験を一定期間持つ者が、その後の高校での英語学習でコミュニケーションの大切さを感じた結果ではないかと思われる。

続いて、重回帰分析の結果について述べる。「中学校の時の英語学習が楽しかった」が「英語が好き」に及ぼす影響について、「高校の時の英語学習が楽しかった」を媒介とするか否かを確認するために媒介分析を行った。まず、「英語が好き」を目的変数に、「中学校の時の英語学習が楽しかった」を説明変数にした回帰分析を行った。この結果、「中学校の時の英語学習が楽しかった」は「英語が好き」を有意に予測していた ( $b=0.32$ ,  $SE=0.03$ ,  $t(824)=9.95$ ,  $p=.000$ )。さらに「高校の時の英語学習が楽しかった」を説明変数に追加した結果、「高校の時の英語学習が楽しかった」は「英語が好き」を有意に予測し ( $b=0.42$ ,  $SE=0.03$ ,  $t(823)=15.47$ ,  $p=.000$ )、「中学校の時の英語学習が楽しかった」の効果も有意ではあったが、それを上回った ( $b=0.19$ ,  $SE=0.03$ ,  $t(823)=6.38$ ,  $p=.000$ )。間接効果の検定の結果、95%信頼区間  $[0.08, 0.40]$  は0を含んでおらず、「高校の時の英語学習が楽しかった」の有意な媒介効果が認められた（図3参照）。

次に「中学校の時の英語学習が楽しかった」が「得意」に及ぼす影響について、「高校の時の英語学習が楽しかった」が媒介するかどうかを確認するために媒介分析を行った。まず、「英語が得意」を目的変数に、「中学校の時の英語学習が楽しかった」を説明変数にした回帰分析を行った。この結果、「中学校の時の英語学習が楽しかった」は「英語が得意」を有意に予測していた ( $b=0.30$ ,  $SE=0.03$ ,  $t(824)=10.13$ ,  $p=.000$ )。さらに「高校の時の英語学習が楽しかった」を説明変数に追加した結果、「高校の時の英語学習が楽しかった」は「英語が得意」を有意に予測し ( $b=0.40$ ,  $SE=0.03$ ,  $t(823)=15.86$ ,  $p=.000$ )、「中学校の時の英語学習が楽しかった」の効果も有意ではあったが、それを上回った ( $b=0.18$ ,  $SE=0.03$ ,  $t(823)=6.53$ ,  $p=.000$ )。間接効果の検定の結果、95%信頼区間  $[0.09, 0.16]$  は0を含んでおらず、「高校の時の英語学習が楽しかった」の有意な媒介効果が認められた（図4参照）。

図3と図4より高等学校での英語の学習が楽しいと感じることが、その後の英語への好意的な感情や英語を得意・不得意と感じることに対して影響を与えていると言える。人生を左右しかねない大きな出来事でありハイステークス (high-stakes) な大学受験が終わり、記憶が鮮明な時期におけるアンケート調査であったことと、大学受験という大きなプレッシャーから解放されて、率直な思いが表出されたことの2つの点が関係していると考えられ、興味深い結果と言える。

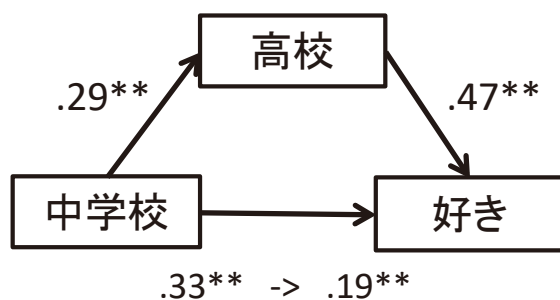


図3 高校を媒介変数とするモデル（目的変数：好き）  
間接効果： $b=0.13$ , 95% CI  $[0.10, 0.17]$   
\*\* $p<.01$

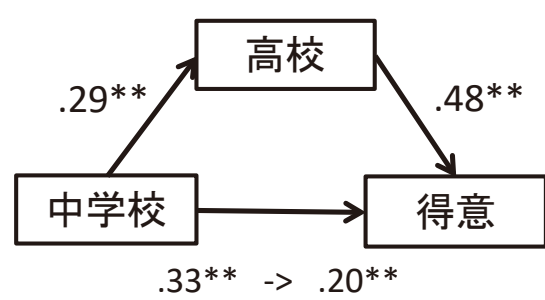


図4 高校を媒介変数とするモデル（目的変数：得意）  
間接効果： $b=0.13$ , 95% CI  $[0.09, 0.16]$   
\*\* $p<.01$

次に、質的分析の結果について述べる。図5は、Q6に関して「4 楽しかった」と「5 とても楽しかった」と回答した割合を示したグラフである。年度によって多少の増減はあるが、23.1%から43.8%の間で推移し、平均値は31.8%である。質的分析に用いた自由記述は、この範疇の回答者のものを用いた。



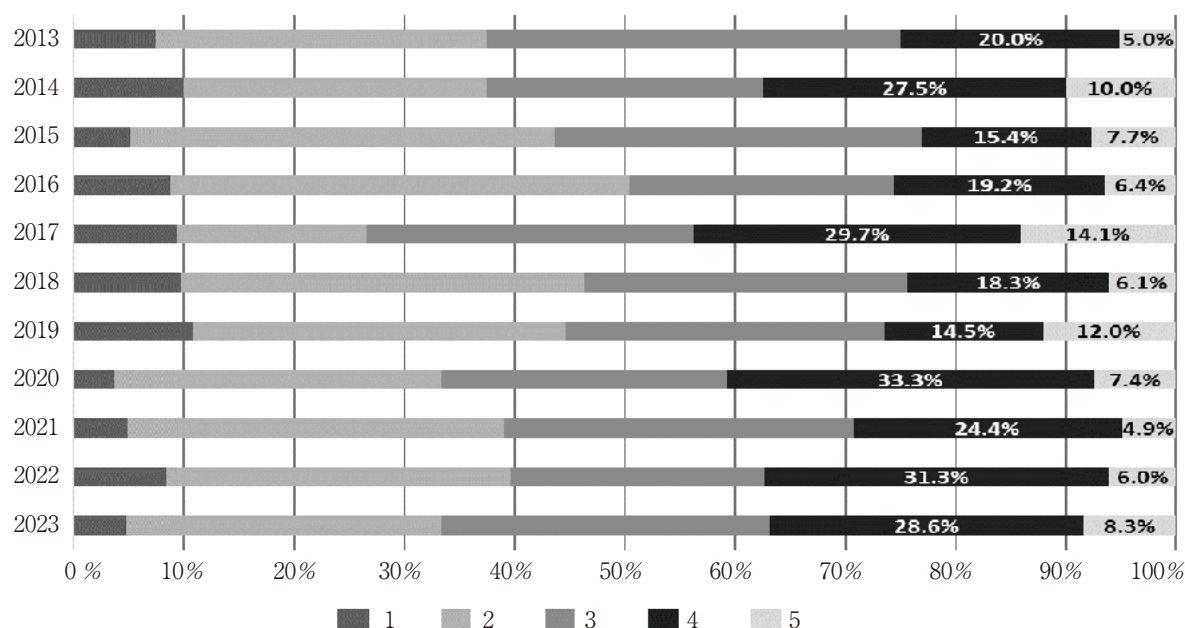


図5 Q6に関して「4 楽しかった」、「5 とても楽しかった」と回答した割合

表2は、Q3の「英語について思うことを自由に書いて下さい」に対する主な回答を表している。「楽しい・好き」「価値ある教科・言語」及び「願望・憧憬」（具体例：英語が話せると格好いい）」といった肯定的コメントが多くみられる。一方で、「苦手で難しい技能」という認識も少数ながら存在している。

参加者たちは、英語をコミュニケーションツールとして必要不可欠なものとして捉えているが、高校時代は授業においても英語を話す機会がそもそも少なかったと感じている。他者と接することを好み、他者との交流を望んでいることが伝わる。これは教員養成課程の学生の特徴と言えるだろう。また、高校時代に苦労しながらも、英語を学ぶ楽しさを経験し、英語が伝わる喜びを感じたり、困難に感じる学習がテストの結果等で報われたりした成功体験を有しているからこそ言えるコメントではないだろうか。英語を話せると格好いいという「願望・憧憬」はほぼ毎年存在している。『小学校英語に関する調査』（ベネッセ教育総合研究所、2023）によると、「英語の授業を通じて思うようになったこと」という問いに対して、2019年と2023年の小学校6年生もそれぞれ57.6%と56.1%が、英語が話せたら格好いいと感じている。ALTが英語を話すことは当然のことであり、恐らく児童たちは担任教師をはじめとする日本人教師が英語を話すことに対して、格好よさを感じているものと思われる。将来、教壇に立つ学生に、自ら願望・憧憬を現実の力に変える体験をする援助を大学として施す必要があるだろう。

表2 Q3「英語（そのもの）について思うことを自由に書いて下さい」に対する主な回答

	コード	具体例
2023	楽しい・好き	・勉強すればするほど楽しい。 ・言いたいことが伝わった時、楽しい。 ・外国の方とコミュニケーション取れれば楽しい。 ・話したり、歌ったりすることが楽しい。
	価値ある教科・言語	・最も大事で学ぶ必要ある教科。 ・やればできるようになる教科。 ・世界のたくさんの人と繋がれる。 ・違う文化を知ることができる有効な道具。
	苦手で難しい技能	・リスニングは苦手で難しい。 ・話すことは苦手。
2022	楽しい・好き	・聞けて理解できれば、もっと楽しくなる。 ・街中の英文読めると嬉しいし、楽しい。 ・英語でのコミュニケーションに大きな喜びと楽しさを感じる。 ・speakingよりwritingの方が好き。
	価値ある教科・言語	・とても大切なもの。 ・国際的に最も通じる言語。 ・汎用性高い。 ・海外の情報を入手できるのが1番の利点。
	苦手で難しい技能	・話すのは楽しいが、難しい。 ・speakingとlisteningが難しい。 ・発音が難しい。 ・話したり、書いたりが苦手。
	願望・憧憬	・話せたら格好いい。

2021	楽しい・好き	・勉強面倒だが、できると楽しい。 ・ディベート好き。
	価値ある教科・言語	・将来に役立つ。
	苦手で難しい技能	・速読苦手。 ・リスニング難しい。 ・細かい文法説明難しい。 ・発音が聞き取れない。
	願望・憧憬	・話せたら格好いい。
2020	楽しい, 好き	・コミュニケーションできて、考えもシェアできると感動的で楽しい。 ・外国人と話すのは楽しい。 ・わかるようになると楽しい。 ・語が増えて使えるようになると楽しい。
	願望・憧憬	・洋楽, 洋画を楽しみたい。 ・流暢に話せると格好いい。
	価値ある教科・言語	・グローバル社会における手段として必要。 ・英語が活用できると様々なことができる。 ・ますます大切になる (世界の人と仲良くなれるから)。 ・海外文化を学べる。
	苦手で難しい技能	・発音難しい。 ・単語, 文法覚えるのは好きではない。
2019	楽しい, 好き	・会話できるととても楽しい。 ・英語の授業楽しいので好き。 ・楽しいし, 面白みがあり, 好きな科目。
	価値ある教科・言語	・他国の人とコミュニケーションをとるために必要なもの。 ・世界の共通語。 ・英語が使えないと社会で通用しない。
	苦手で難しい技能	・聞き取りが難しい。 ・発音難しい。 ・英作文, speaking難しい。
	願望・憧憬	・今後も需要がすごくあるので得意になりたい。 ・話せると格好いい。 ・歌えると格好いい。 ・海外に行って, コミュニケーションをとりたい。
2018	楽しい	・意味が分かると楽しい。 ・難しいがわかると楽しい。 ・英語はやればできることを高校でとても実感。やればやるほど伸びて楽しい。
	価値ある教科・言語	・コミュニケーションツール。 ・文化を知るために必要。 ・全世界の人と繋がれる。
	苦手で難しい技能	・長文読むのが大変。 ・聞くこと, 書くこと, 話すことは非常に難しい。
	願望・憧憬	・話せると格好いい。 ・歌えると格好いい。 ・自分もベラベラになりたい。
2017	楽しい, 好き	・発音, スピーキングが楽しい。 ・難しい英文をこなした時の達成感が好き。 ・英語の曲が格好良くて好き。 ・相手に伝わった時にとても嬉しくなる。
	やりがいある科目	・勉強すればするほど伸びるイメージ。 ・勉強して得しかない科目。 ・やればやるほど深くて面白い。 ・勉強しといてよかった。
	価値ある教科・言語	・大学のうちに習得しなければいけない重要なもの。 ・異文化交流できる。 ・これから絶対に欠かせない言語。 ・話せるといろんな人と関わって楽しい。 ・世界が広がる。
	願望・憧憬	・英語に関する知識を高めたい。 ・話せるようになりたい。 ・たくさんの国の人としゃべりたい。 ・できたら格好いい。
2016	楽しい, 好き	・コミュニケーションがとれて楽しい。 ・英語で話すことが好きで楽しい。 ・読めたり, 話せたりすると楽しい。 ・得意ではないが, とても好き。
	価値ある教科・言語	・今後最も力を入れていくべき科目。 ・とても必要な言語。 ・世界の人々と繋がれるので素晴らしい。 ・重要視されているので, 学ぶ良い機会。
	苦手で難しい技能	・授業でできても, 日常の中ではうまく使えない。 ・発音苦手。 ・文法を理解して覚えるのが大変。 ・単語のスペルを覚えるのが大変。
	願望・憧憬	・外国の人と話せるようになったらいいな。 ・発音よくしゃべりたい。 ・自然と話せるようになりたい。
2015	楽しい, 好き	・スラスラ読めた時に楽しさを感じる。 ・長文解くのも好き。
	苦手で難しい技能	・文法や構造が難しい。
	願望・憧憬	・日常会話ができる力をつけたい。 ・話せると格好いい。 ・外国人に道を聞かれてもスマートに対応できるくらい上手になりたい。
2014	楽しい, 好き	・和訳は好き。 ・単語, 熟語を覚えることは好き。 ・会話は楽しい。
	価値ある教科・言語	・今の社会では欠かせない大切なもの。 ・わかるようになって初めて面白いと思える教科。 ・コミュニケーションの場が広がり, 新しい世界が開けてくる。
	苦手で難しい技能	・学ぶのはいいが, 勉強としてしたくない。 ・単語が覚えられない。
	願望・憧憬	・実用性, ファッション性ともに優れているので身につけたい。 ・英語好きになりたい。 ・使えればモテそう。

2013	楽しい, 好き	・外国人と英語で話ができた時の喜びが大好き。 ・苦手でも好きだったから、頑張って続けられた。
	価値ある教科・言語	・広く使われている言語で、自分の世界を広げてくれる。
	苦手な難しい技能	・もっと話せるようになりたいが、文法がわからないから話せない。 ・好きだけど、得意ではない。
	後悔	・高校であまり真剣に勉強してこなくて後悔。
	願望・憧憬	・アメリカ留学して、スラスラ話せるようになりたい。 ・話せたら格好いい。 ・コミュニケーションの機会があまりないので、海外へ行きたい。

表3はQ7の「これまでの英語学習について思うことを自由に書いて下さい」に対する主な回答を表している。「楽しかった」という回答がほぼ全ての年度に存在する。「好きになった」「興味を持った」及び「嬉しかった」も多い。一方で、受験に関する「否定的意見」もほぼすべての年度において見られる。参加者たちは、英語がわかるようになるためには、困難が伴うことを十分に認識している。それを乗り越えた先に目的が達成できる喜びがあり、楽しさが生まれることを知っていることが窺える。

Q7の回答を自己決定理論(Ryan & Deci, 2002)に基づいて考察すると次のようになるだろう。自己決定理論では、外発的動機づけが内面化の過程における自己決定の度合いに応じて5つの水準に分けられているが、そのうち2つの水準がQ7の回答と一致する。1つ目は同一視的調整(regulation through identification)である。これは、行動目標と共に個人的に重要なものとして行動を受け入れる調整を指す。具体例としては、受験に関する「否定的意見」が該当する。単語や文法を覚えるのは面白くないが、受験を突破するには必要であると考えることである。2つ目は統合的調整(integrated regulation)である。これは、自身の目的や欲求とその行動の価値が一致する状態を指し、最も自律的な形の外発的動機づけとも言える。具体例は、「楽しかった」「好きになった」「興味を持った」及び「嬉しかった」などのコメントである。

表3 Q7「これまでの英語学習について思うことを自由に書いて下さい」に対する主な回答  
(高校に特化したコメントを抜粋)

	コード	具体例(原文のまま)
2023	好きになった	・高校で3日間海外の人と交流する企画を通して英語好きになった。 ・大学受験の時、長文を読むことが好きになって、英語がさらに好きになった。 ・高校の先生の授業でクラスの人と関わるグループ活動が好きだった。 ・高校での授業がたまたま私にとっても合っていて、また好きになった。
	楽しかった	・高校の時はグループやネットを活用していて楽しかった。 ・ALTの先生には1年生の時に英語の授業をしてもらっていたが、やはりすごく楽しかった。
	否定的要素	・高校の時は、1年生の時以外はテストに向けての授業が多かった。 ・高校になると、楽しい授業であっても、どうしてもテストというがあるので、あまり好きではなくなった。
2022	好きになった	・高校に入ってから長文などが難しくなった。でも、わかると楽しかったので英語は好き。 ・高2の後半までは英語が好きではなかったが、受験勉強として英語と触れる機会を増やしたことで、英語は実は楽しいものだ気づけて、好きになった。
	楽しかった	・高校は進学校(?)だったので、授業のペースが速く大変に感じた。話し合う活動が多かったのも、それは楽しくできた。 ・小中高と全て楽しく学習できた。 ・高校で英語を学んでいくうちに徐々に楽しいと思えるようになった。 ・高校の担当の先生がとにかくアグレッシブで面白かったので、難しさと楽しさが半分ずつくらいだった。
	面白かった・嬉しかった	・高校の英語はレベルが高くて面白かった。 ・小～高まではペアワークなどをする機会が多かった。自分の言いたいことが英語でしっかり相手に伝わった時は嬉しかった。
	否定的要素	・高校になると覚える単語、文法が増えて、一気に難しくなり、英語が苦手科目となった。 ・高校は本格的に学んでいたのも、難しく嫌になる時もあった。 ・アクティビティーを中高で続けられれば、習得が速くなると考える。など文構造をもっと高校で教えるべき。共通テストもただ文章を読ませ、聞かせではなく、理論的問題も出すべき。
2021	楽しかった	・高校の英語学習が今までで一番楽しかったと思っている。

2020	興味を持った	・ 高校生の時に英語でプレゼンテーションする機会があり、自分で英語を話してみたことでとても英語に興味を持つようになった。英語を実際に使ってみることで、英語が身近なものとなるのだと思った。
	役に立った	・ 高3の授業が一番役に立った。教科書は1回も使わなかった。グループで英作文を作ったり、リスニングと発音をやっていた（特に発音）。
	否定的要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文法の○×問題などは、受験のためにちまちまやっても英語でのコミュニケーションを思えば、何のためにやっているんだろう、何の意味があるんだろうと思いながらやっていた。</li> <li>・ 高校からかなりレベルが上がって苦労した印象がある。</li> <li>・ 堅い英語（センター試験で点数を取るための英語）ばかりに重点が行きがちな気がした。仕方ないのかもしれないけど。</li> <li>・ 高校の英語学習は英文をひたすら翻訳する学習で、少し物足りなく感じた。</li> <li>・ 高校から英語が急に難しくなったように感じた。</li> <li>・ 今までは話すためというよりもセンター試験やその他のテストのために勉強している感が強かった。</li> <li>・ 高校は実際に使うための英語というよりも受験のための英語というイメージが強かった。もちろん、実際に使うのにも役に立っているが、リアルに使うことができる英語の喜びも必要だと感じる。</li> </ul>
2019	楽しかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中高と英語の学習時にネイティブの先生がいて、その先生と英語でコミュニケーションをとることがとても楽しかった。高校時には英語のスピーチコンテストがあったりし、自分の意見を英語で伝えることの楽しさを学ぶことができた。</li> <li>・ 高校の時はアクティブラーニングの時間もあったが、グループ学習時間だけの時や逆に教科書のテスト範囲が終わらないこともあった。楽しかったのは、1つの単語からどんどん派生させていくことだった。</li> <li>・ 高校の英語の授業がとても楽しかった。歌を歌ったり、ペアで話したり、実践する（声を出す、話す）授業が多かった。</li> </ul>
	否定的要素	・ 書くのはたくさんしたけど、人と話す英語は中高ではあまりしたイメージがない。
2018	楽しかった	・ 私が通っていた高校はSGHに認定されていて、毎週英語で話したり、スピーチしたりすることがあって、とても楽しかった。しかし、それは学校の中での特殊な科の人だけが受ける授業だったので、皆もすれば英語力も人前で話す力もつくのにとっていました。
	否定的要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で（特に中学、高校）、生徒が楽しそうに英語を話している姿をあまり見ていません。英語の楽しさを教えられる授業が行えていないのではないかと思います。</li> <li>・ 高校ではあまりspeakingの練習をしてこなかったもので、GTECでspeakingを数回経験した時、苦労した。</li> </ul>
2017	楽しかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校は楽しかった。 ・ 高校で頑張ったおかげで英語で学ぶことが楽しくなった。</li> <li>・ 高校の先生はグループワークを大切にしていたので、英語で相手に何かを伝えるということをよくしていて楽しかった。</li> </ul>
	成果実感	・ 英語コースに所属していたため、書く、聴く、読む、話す能力がついているのではないかと思います。 ・ 高校の受験期に最も伸びた。
	否定的要素	・ これまでは受験のための英語という感じがして、詰め込んできてしまった気がする。
2016	楽しかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デイバートなど英語を話す活動が楽しくて好きでした。</li> <li>・ 高校生になってやっと英語の授業が楽しいと思った（高校時代の恩師のおかげ）。</li> <li>・ 中高一貫校を出ているので、6年間ずっと授業の初めに英語の歌を歌っていたので、とても楽しんでできていた。姉妹都市の大学に行く機会もあったので、本場の英語に触れたりできたので、とてもいい経験だった。</li> <li>・ 高校の授業で長文を理解できた時や海外の人と英語で話せた経験を通して、楽しいと思えるようになった。</li> <li>・ 高校になってテストや試験のための勉強だったけど、わかるようになって楽しかった。</li> </ul>
	興味を持った	・ 高校の授業で英語の歌を歌っていたので、海外の文化などに興味がある。
	成果実感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校で書く、読む、話すをたくさんしてきたので、文法をきちんと使えませんが、書く、話すには慣れた。インプット→アウトプットが大切だと高校で学んだ。</li> <li>・ 高校に入ってから少しだけALTの先生とも話せるようになった。</li> </ul>



	否定的要素	・どこで使っているかわからないような文などを入試のためやテストのために覚えさせられたので、使い方等を教えてほしい。・受験のための英語学習だった。 ・高校では読むことが多かったの、あまり話すことなどしなかった（←かなり問題）。センターや2次対策ばかりだった。
2015	否定的要素	・高校の時、文系、理系、英語コースのクラス分けで英語コースを選んだ。そこで友達やALTと話すのはとても楽しいと思っていたが、1人5分スピーチする機会があって、それはすごく辛かった！！と思っている。
2014	楽しかった	・受験の前までは、覚えてくる度に楽しいという気持ちが強くなった。今となっては受験勉強の中での英語もとても充実していて、楽しかったと思える。 ・文を読むには単語がすごく大切だと思う。高2の夏に基礎を固めてもらってグンと成績が伸びて、英語が好きになった。
	否定的要素	・高校で習う英語は日常生活で使えるものが少ない。5教科の中で一番苦手だった。・高校で覚えることが多くて大変だった。
2013	楽しかった	・センター試験に向けて勉強している中で、初めは嫌いだったが、だんだんと楽しくなってきた。
	否定的要素	・高校時代は受験突破のための英語を学習している感じがした。

表4は、Q8の「これからの英語との付き合い方について思うことを自由に書いて下さい」に対する主な回答を表している。「話せるようになりたい」や「コミュニケーションをとれるようになりたい」が圧倒的多数を占めている。「文法を基礎からやり直したい」「語彙を増やしたい」「資格・検定を取りたい」及び「海外に行きたい、留学してみたい」も多く、「4技能のできる英語教師になりたい」という回答も見られた。高校の授業が楽しかったと回答した学生だからこそ、今後どのように英語と付き合いたいかという目的意識が明確である。「文法を基礎からやり直したい」や「語彙を増やしたい」というコメントからは、教える立場に立った時に正しい知識、技能を教えたいという責任感が窺える。一方で、単語や文法を積み上げるだけの従来の英語学習観から抜け出せていない可能性も考えられる。言語活動が学校現場でさほど行われていないことも想像される。

表4 Q8「これからの英語との付き合い方について思うことを書いて下さい」に対する主な回答

2023	・話せるようになりたい。・コミュニケーションを取りたい。・文法力をつけたい。・留学したい。 ・語彙力伸ばしたい。
2022	・話せるようになりたい。・リスニングを強化したい。・検定取得したい（TOEIC, GTEC, 英検）。
2021	・話せるようになりたい。・リスニングを強化したい。
2020	(COVID-19の影響で授業形式が異なったためこの質問項目は除外)
2019	・話せるようになりたい。・海外、留学に行きたい。・検定取得したい（英検）。・基本からやり直したい。
2018	・話せるようになりたい。・海外に行きたい。・基本からやり直したい。・実践的なことやりたい。
2017	・話すことと書くことを伸ばしたい。・文法をやり直したい。・基本からやり直したい。 ・語彙力伸ばしたい。・検定取得したい（英検準1級、2級）。
2016	・話せるようになりたい。・Speakingに活きる文法やりたい。・語彙力伸ばしたい。・外国へ行きたい。 ・4技能でできる理想の英語教師。・検定取得したい（英検2級）。
2015	・話せるようになりたい。・コミュニケーション取りたい。・教師になった際の指導力上げたい。 ・洋楽歌いたい。・文法をしっかりやりたい。
2014	・話せるようになりたい。・検定取得したい（TOEIC, TOEFL）。・文法をしっかりやりたい。 ・基礎力を充実させたい。
2013	・話せるようになりたい。・基礎力を充実させたい。・発音よくしたい。・語彙力伸ばしたい。 ・検定取得したい（TOEIC, TOEFL, 英検）。

社会や教育制度の変化による影響について考察する。2020年度の入学生においては、大学受験に関する否定的意見が多い。COVID-19の影響によって、自分を取り巻く、思うようにならない周囲の状況から、負の感情で高等学校時代を回顧した回答も相当数あると思われる。2021年度から2023年度の入学生には「話せるようになりたい」というコメントが多数見られた。これは英語4技能民間試験導入の動き（2020年）および4技能5領域に改訂された学習指導要領（移行期間：2019～2021年度）の影響であるかもしれない。正式導入には至らなかったが、4技能民間試験導入

について短期間において侃々諤々の議論がなされ、英語を話すことに対する意識が向上し、教室内で英語を話す活動が以前よりも多く実施された結果と言えるかもしれない。

## 5 結論

本調査の結果から、高等学校における英語学習の楽しさ、換言すれば充実度が、その後の英語学習への感情（好き、得意）、および姿勢に与える影響が大きいことが明らかになった。小学校では英語を学ぶことは楽しいという思いを育み、中学校では楽しいに加えて、表現したいことをさらに思考・判断していくことも必要となる。英語を学ぶことは楽しく、表現できることも増えたことを土台として、高等学校では、知的好奇心を刺激する楽しさや興味深さを感じる授業をいかにデザインできるかが課題となる。そのためにはタスクやプロジェクトに基づく英語学習の導入が今後ますます期待される。さらに、本調査への参加者たちが話す活動やコミュニケーションをとる活動の充実を求めていることから、高校時代に英語で話すことに興味があっても、話す機会の少なかった学生たちの欲求を満たす場面を大学の授業内に設定することが必要となる。このことで、将来小学校教師になった際に必要になる、平易な表現でスムーズに英語を使い、教えられる英語力の習得につながると言える。

最後に、本研究の限界について述べる。量的分析の資料となった参加者は教員養成系大学の学生ということで学習に向かう姿勢、熱意、学力そのものが担保されている。さらに質的分析資料となった参加者は高等学校時代の学習を楽しみと感じた者ということで、非常に限定的であり、本研究の結果をそのまま一般化することはできない。しかしながら、調査した年月と人数にはかなりの実績があり、同様の調査が開始される端緒となれば幸いである。

## 謝辞

本稿は、第52回中部地区英語教育学会岐阜大会（令和5年6月24日・25日オンライン開催）において「高等学校までの英語授業へのエンゲージメントがその後の英語学習への姿勢に与える影響」と題して発表したものに、大幅な加筆修正を行ったものである。本調査にご協力頂いた多くの学生の皆さんに感謝申し上げる。

## 参考文献

- 梅本貴豊・伊藤崇達・田中健史朗（2016）. 「調整方略、感情のおよび行動的エンゲージメント、学業成果の関連」『心理学研究』第87巻、第4号、334-342.
- ベネッセ教育総合研究所（2023）. 『小学校英語に関する調査』[https://berd.benesse.jp/up\\_images/research/research\\_230830.pdf](https://berd.benesse.jp/up_images/research/research_230830.pdf)（2024.1.6閲覧）
- 文部科学省（2013）. 『グローバル化に対応した英語教育改革実施計画』[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/\\_icsFiles/afieldfile/2014/01/31/1343704\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2014/01/31/1343704_01.pdf)（2022.8.31閲覧）
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2002). Overview of self-determination theory: An organismic dialectical perspective. In E. L. Deci & R. M. Ryan (Eds.), *Handbook of self-determination research 2* (pp. 3-33). New York: University of Rochester Press.
- 清水裕士（2016）. 「フリーの統計分析ソフトHAD：機能の紹介と統計学習・教育、研究実践における利用方法の提案」『メディア・情報・コミュニケーション研究』1, 59-73.
- 渡邊政寿・大場浩正（2023）. 「小学校教員養成課程の大学生の英語および英語指導に対する意識－小学校から高等学校の経年比較に基づいて－」『上越教育大学教職大学院研究紀要』10, 249-258.

# The Impact of Engagement in English Classes Until High School on Subsequent Attitudes Toward English Language Learning

Yuki SALVACION\* · Hiromasa OHBA\*\* · Masatoshi WATANABE\*\*\*

## ABSTRACT

This study aims to examine how participation (particularly behavioral and emotional aspects) in English classes in elementary, middle, and high school affects subsequent attitudes toward learning English and attitudes toward English among 826 first year students (2013–2023) immediately after they start university. This paper will focus on high school participation. The questionnaire survey asked students about their current feelings about English and English learning and how they enjoyed learning English in the past (from elementary school to high school). The results revealed that the enjoyment, or level of fulfillment, of learning English in upper secondary school significantly impacted later feelings (liking, being good at) and attitudes toward learning English. The qualitative analysis also revealed that, while some students regard English as an important communication tool, they believe they did not have many opportunities to speak English in high school, including in the classroom. Students who enjoyed their high school classes desired to “speak” and “communicate.” Given that many students aspire to be elementary school teachers in the future and that opportunities to teach foreign languages are expected, improving the content of university English classes will become increasingly important.

---

\* Nagoya Women's University Junior and Senior High School    \*\* Humanities and Social Studies Education

\*\*\* Humanities and Social Studies Education